

※評価委員会評価がs、a、b、c、d
の評価のうち、b（概ね達成）以
下の評価項目（小項目）に対する
反映状況を掲載

評価結果反映状況一覧
【令和 5 (2023) 年度版】

評価項目（全体評価・大項目・小項目）		委員会評価の ↑↓	評価における主な指摘事項 *小項目順に記載 【対象：R 5 年度(2023年度版)】	法人の業務運営等への反映状況（R 6 年度）	自己評価 R5年 度
大項目	小項目 評価委員会の評価がb又はcであった項目				
1	18	b	（言語教育センターの取組み） 指摘事項の記載なし	・言語教育センターにおいて、学生の英語運用能力の向上のためTOEIC集中講座を開講した（1～2月に1日4時間×4回。11人受講）。 ・学生の日常的な英語使用機会の提供企画として、長野市旭山の登山企画「Let's Climb a Mountain!英語でハイキング」（11月9日実施。6人参加）、象山寮で英語映画を鑑賞し英語で意見交換や話し合いを行うイベント（12月～1月に2回。延べ11人参加）、English cafeとして「Lunch English」（12月～1月に3回。延べ7人参加）を開催した。	b
1	19	c	（学生の英語力向上） 目標達成のため種々の具体的な対応がなされ、TOEIC平均点を伸ばしたことを評価するが、目標値に達していないことからc評価とした。	・令和6年度からグローバルマネジメント学部では新たに2年次3学期末のTOEIC-IP受験を追加し、結果を「Career English I」の成績の20%として反映することとした。また、従来からTOEIC-IPの受験結果を反映していた「Career English II」において反映割合を30%から40%に高め、学生が高スコアを目指す意欲の向上を図った。	c

5	56	c	(科研費の申請率、採択) 採択率の実績は評価できる。科学研究費補助金の継続者を除く新規申請率は、昨年より上昇しているが、目標値に達していないため、c評価とした。	・令和6年度中に本学教員による研究代表者としての科研費の申請率は、継続者を除いて29%(18人/62人)、採択率は28%(5人/18人)となった。 ・教員による令和6年度科研費の研究課題は計59件(研究代表者30件、分担者29件)となり、令和5年度から増加した。 ・科研費申請・採択の促進策として、外部の科研費添削サービスをの活用や申請書の提出前に職員による記入不備や誤字脱字等の形式チェックにより、申請促進を図った。	c
大項目	小項目 自己点検・評価より評価を下げた項目				
1	5	↓b	(グローバル教養ゼミの開講) グローバル教養ゼミを開講したことは評価するが、受講者数が少ない状況であるため、当該ゼミの魅力を学生に丁寧に説明し、受講生を増やす努力が必要であるため、法人評価より低いb評価とした。	・限られた少人数によるゼミを全9クラス開講した。密度の濃い学びの場を提供することで、専門分野以外の領域で学生が興味・関心が高い分野において、幅広くかつ深い学びの機会を提供することができた。	a
1	17	↓b	(学生の英語力の向上) 受講者が少なく、英語集中プログラム履修後も英語力向上を目指すというこの講義の開講の意義が果たされていないと考えられるため、法人評価より低いb評価とした。	・令和6年度より3・4年次科目のカリキュラム改革を実施し、学生の多様な関心を喚起するような科目群を開講することとした。 ・3・4年次選択英語科目に関するオンライン説明会や履修登録期間における各科目の紹介により、履修を促した。	a